

 活動報告

2022年度も、プカロンガン市と周辺の沿岸部の村々では、高波と海面上昇、地盤沈下により、海岸浸食と慢性的な浸水被害、深刻な洪水が発生しました。

浸食・浸水被害が特に深刻な6つの村を対象に、行政とコミュニティ、養殖業者等と協力して、水害対策と沿岸保全活動を実施しました。前年度に策定した水害時の避難計画や組織した住民グループを基盤に、救命救助の訓練を行いました。コミュニティリーダー、子ども、青年、女性グループから150人が参加しました。年明けには大きな洪水が発生し、訓練が実際に活かされました。

また、沿岸保全として、マングローブ保全と並行して持続可能な養殖の導入を始めています。消毒剤等に

よる汚染の防止、マングローブ林との共存、地域経済の回復により、生態系と共生する養殖業の実現を目指します。専門家による水質や生態系の分析を経て、対象地域に適した環境負荷の少ない養殖手法が検討されました。

一方で、高波の影響はより破壊的な被害をもたらし、支援する一つの村(スムット村)がほぼ消失しました。多くの家屋が高波で崩壊し、村へのアクセス道路は冠水しています。ほとんどの住民は、村内外の親戚や知人宅に一時避難し、数軒のみ残る住民も、不便な暮らしを強いられています。今後は、住民の健康で安全な生活の確保と移転後の生計手段の回復を行政に働きかけて行きます。



2022年度活動

- バンドウンガン村における災害シミュレーションを作成。
- バンドウンガン村における救命救急研修を実施。
- 持続可能な養殖業の研修、モデル手法を検討。
- 海岸の住宅が破壊され、多くの世帯が避難するスムット村の住民からの聞き取り。

今後の活動計画（2023年度～）

- 水害避難計画、体制、研修の普及
- 持続可能な養殖業のパイロット事業の実施
- スムット村の住民移転状況の調査、行政との意見交換



高波により崩れた家屋



沿岸に数軒のみ残された民家



水害に備えた救命救助訓練



持続可能な養殖の導入支援

浸食により砂浜は大きく削れ、天然のマングローブや海岸林は倒木したり、枯れてしまっています。植物の根の支えを失った海岸では、より浸食が加速しています。

これ以上の浸食を軽減するため、沿岸部での植林は継続しており、マングローブや海岸林の幼木を高波から守りながら育成する場所の選定や方法に試行錯誤しながら実施しています。活着率は高く、昨年まで

に植林した苗木の生長も順調です。

マングローブ植林木を保護するために今年度設置した防波堤は、高波の影響を受け、維持が困難な状態になりました。過去のデータや住民の経験を超える気象変化や波が発生するため、より慎重に場所の選定や設置方法の検討が必要となっています。設置位置や方法を選定した過程を住民参加型で評価し直し、維持の困難な防波堤は、移設を計画しています。

2022年度活動

- 5つの村(スムット村、ウォノクルト クロン村、トラトゥバン村、アピ・アピ村、プチャカラン村)に5種類のマングローブと松を合計25,000本を植林。※マングローブの活着率は91.72%(2022年5月時点)
- マングローブ植林木保護のため、海岸に100mの竹の防波堤を設置。※移設予定
- マングローブ植林と海岸クリーンキャンペーンの実施。135人の学生と行政スタッフが参加し2.9トンのゴミが集まった。

今後の活動(2023年度～)

- マングローブ、海岸林の植林、メンテナンス
- 苗床の評価
- 防波堤の移設



住民による沿岸保全計画の作成



マングローブの苗床づくり



養殖場へのマングローブ植林



マングローブを管理する住民



順調に成長するマングローブ